

5年 単元名「環境問題について考えよう」（10時間）

～海を知る・守る～

1 単元設定の理由

・小木の海の環境について知り、問題点に気づき、小木の海の環境を守るために自分たちにできることを考える。

2 単元目標

身近にある「海洋ごみ」の現状を知り、小木だけの環境問題ではないことに気づき、環境保全活動を通して、主体的に環境問題に関わり、自分や社会全体でできることは何かを考え実践しようとする。

3 単元の評価規準

| 里海科についての 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
|--|---|------------------------------|----------------------------|
| 自分たちの住む地区の環境問題について知り、ごみ調査やごみ拾いに進んで取り組んでいる。 | 海の環境に問題を見だし、計画的に追求し、自分たちにできることは何かを考察し、表現している。 | 地区のごみ調査の結果を記録し、グラフとしてまとめている。 | 人々の暮らしが海洋に及ぼす影響について理解している。 |

4 単元の指導計画

| 時 | 学 習 活 動 | 指 導 上 の 留 意 点 |
|---|---|---|
| 1 | 小木の海の環境を振り返る。 ・昨年度までの活動を振り返り、現在の環境について話し合う。 ・どこにごみが多くあるか予想する。 | ・アンケートを取る。 ・次時の見通しを持つ。 |
| 2 3 | 現状を知る。 ・前時で予想した場所を見に行く。 ・どんなごみが落ちていたかを確認する。 | ・事前の下見へ行き、予想していない場所を把握しておく。 |
| 4 | 「海洋ごみ」の講義を聞く。 ・ごみ問題について話を聞く。 ・深刻な問題であることに気付かせる。 | ・GT（里海教育研究所）による講義を依頼する。 ・事前に講義内容を把握しておく。 |
| 5 | 学習計画を立てる。 | |
| 6 10 | ごみ調査に出かける。 ・GW中に自分の地域、GW明けから調査していない地域に出かける。 ・ごみ拾いをする。 ・学校に戻ってきて分別（燃えるごみ・燃えないごみ・プラスチック・漁具）する。 | ・GW中のごみ拾いを保護者に伝える。 ・軍手、ごみ袋の用意をする。 |
| 外部連携／教材等 能登里海教育研究所 木下 靖子先生（GT） 小木中学校2年生 | | |

5 活動の様子



ごみ調査の様子



GTによる講義



ごみ拾い（新町）の様子



ごみ拾い（下浜）の様子



小中合同海岸清掃の様子



ごみの分別の様子

6 成果・課題

- 現状を確認，GTによる講義の流れが，児童の学習意欲を引き出すきっかけとなった。
- ごみ拾いを続けることで，小木や海の環境に対する意識を高めた。
- 海洋ごみの深刻さについて理解し，意識の流れを切らすことなく，2学期への見通しにつなげることができた。
- ▲繰り返しのごみ拾いのため，活動時間が1つの地域に3時間は必要となる。
- ▲4年生のイカす会の活動から約1年間環境学習から離れたため，導入のつながりが難しかった。カリキュラムの見直しが必要。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・石川県以外でも他の国とかで，ごみがたくさんあることにびっくりしました。その中でもプラスチックが多いと分かりました。魚がその小さなごみを食べて死んでしまうことがあると，初めて知りました。だから，海にごみを捨ててほしくないと思います。
- ・今日，ごみ拾いをしてみて，海にも道路にもごみが落ちていて悲しかったです。誰がどうして捨てるのかとても不思議でした。地域によってごみの量や種類がバラバラでびっくりしました。自分の家の近くにはなかったけど，下浜や東町にはプラスチックやたばこがいっぱいありました。ごみを拾って分別しても，まだまだごみは増えるんだと分かりました。